

「附特就職支援ネットワーク会議」を活用した地域との連携・協働

～「在学中に身に付けてほしい力」を基にした教育・労働・福祉の関係機関が連携・協働した取組～

熊本大学教育学部附属特別支援学校
永井 崇雄

目的

「卒業後を見据えた学びをつなぐ教育課程の編成」の実現に向け、卒業後の生活に関わる教育・労働・福祉関係者による「附特就職支援ネットワーク会議」を開催し、在学中に身に付けてほしい力に関する検討を行うとともに、その結果を踏まえた教育・労働・福祉の関係機関が連携・協働した取組を実施し、その成果を検証し、カリキュラムの充実・改善に繋げることを目的とする。

研究の方法

卒業後の生活に関わる教育・労働・福祉関係者（以下、附特就職支援ネットワーク会議委員）による「附特就職支援ネットワーク会議」を年3回開催（H28年度～R元年度）。

知的障がいのある児童生徒のキャリア教育及び就労支援を効果的に推進するため、熊本大学教育学部附属特別支援学校（以下「本校」という。）において、教育・労働・福祉の関係機関による熊本大学教育学部附属特別支援学校就職支援ネットワーク会議（以下「附特就職支援ネットワーク会議」という。）を設置し、本校のカリキュラム・マネジメント及び地域のキャリア教育や就労支援体制を充実させることを目的とする。



令和元年度 附特就職支援ネットワーク会議委員（9名）

- ・くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁（主任支援ワーカー）
- ・アス・トライ 就労移行支援事業所（代表）
- ・熊本県中小企業家同友会（障がい者雇用支援委員会 委員長）
- ・チャレンジめいとくの里ゆめくらしワークス事業部（サービス管理責任者）
- ・社会福祉法人ライン工房（総括施設長）
- ・熊本市障がい者相談支援センターじょうなん（センター長）
- ・熊本障害者職業センター（主任障害者職業力カウンセラー）
- ・社会福祉法人三気の会相談支援事業所たんぼぼ（熊本時習館特別支援相談員）
- ・NPO法人KP5000（代表）

（1）「在学中に身に付けてほしい力」に関する検討

①一般企業100社に対する『在学中に身に付けてほしい力に関するアンケート』の実施及び結果検討

本校卒業生が就職した一般企業と就職支援コーディネーターが職場開拓で訪問した「障がい者を雇用している」又は「これから障がい者雇用を検討している」一般企業100社を対象にアンケートを実施した。アンケート内容は、本校が開発した『附特就労アセスメントシート』を基に、知的障がいのある児童生徒に在学中に身に付けてほしい力について、「生活」「コミュニケーション」「余暇活動」「就労における作業スキル」「就労における社会スキル」の5観点76項目の4段階評価及び記述式で実施し、その結果について検討を行う。

②卒業後の「フォローアップミーティング」の結果検討

本校では、卒業後3年・6年・10年目の卒業生を対象に、本人・保護者・就労先の担当者・関係機関や学校担当者が一堂に会して現状を共有し、今後の支援や役割分担を確認するフォローアップミーティングを実施し、昨年度で3年目を迎えた。この3年間のミーティング結果（状況の数値化と聞き取り記述）を基に検討を行う。

（2）教育・労働・福祉の関係機関が連携・協働した取組の実施と成果検証

在学中に身に付けてほしい力に関する検討結果を基に、附特就職支援ネットワーク会議委員と連携・協働し、①授業の開発（関係機関と協働した授業作り【高等部職業科・自立活動】）、②研修会等の開催（「卒業後の働く生活を描くセミナー」や「すずかけイブニングセミナー」の開催）、③生涯学習の場の検討（学習教室の開催）、④地域支援（地域の小中高等学校への進路・就労支援や「教育プラグ」の開発と運用）の4つの取組を実施し、成果の検証を行う。

研究の結果

（1）「在学中に身に付けてほしい力」に関する検討

①『在学中に身に付けてほしい力に関するアンケート』の結果より

「そう思う（在学中に必ず身に付けてほしい）」「できればそう思う（在学中にできれば身に付けてほしい）」の回答が多い項目（必須スキル）

- ・規則正しい生活ができる【生活面】
- ・欠勤、遅刻、早退などがない【生活面】
- ・交通ルールを理解している【生活面】
- ・自分から挨拶ができる【コミュニケーション】
- ・相手に聞こえるように返事をする【コミュニケーション】
- ・体調不良を訴えることができる【コミュニケーション】
- ・困っているときに誰かに助けを求めることができる【就労における社会スキル】
- ・会社のルールやマナーを守ることができる【就労における社会スキル】
- ・働きたいという気持ちがある【就労における社会スキル】

「あまり思わない（どちらかといえば卒業後でもかまわない）」「思わない（卒業後でもかまわない）」の回答が多い項目

- ・電話対応ができる【生活面】
- ・法律や制度を理解している【生活面】
- ・ストレスに強い【生活面】
- ・プレッシャーに強い【生活面】
- ・休みの計画を立てることができる【余暇】
- ・情報を収集したり活用したりすることができる【余暇】
- ・手先が器用である【就労における作業スキル】
- ・情報機器を使用して作業を行うことができる【就労における作業スキル】
- ・重たいものを持ったり、動かしたりする体力がある【就労における作業スキル】
- ・相手のペースに合わせることができる【就労における社会スキル】
- ・リーダーシップを発揮して作業することができる【就労における社会スキル】

記述式での意見（一部抜粋）

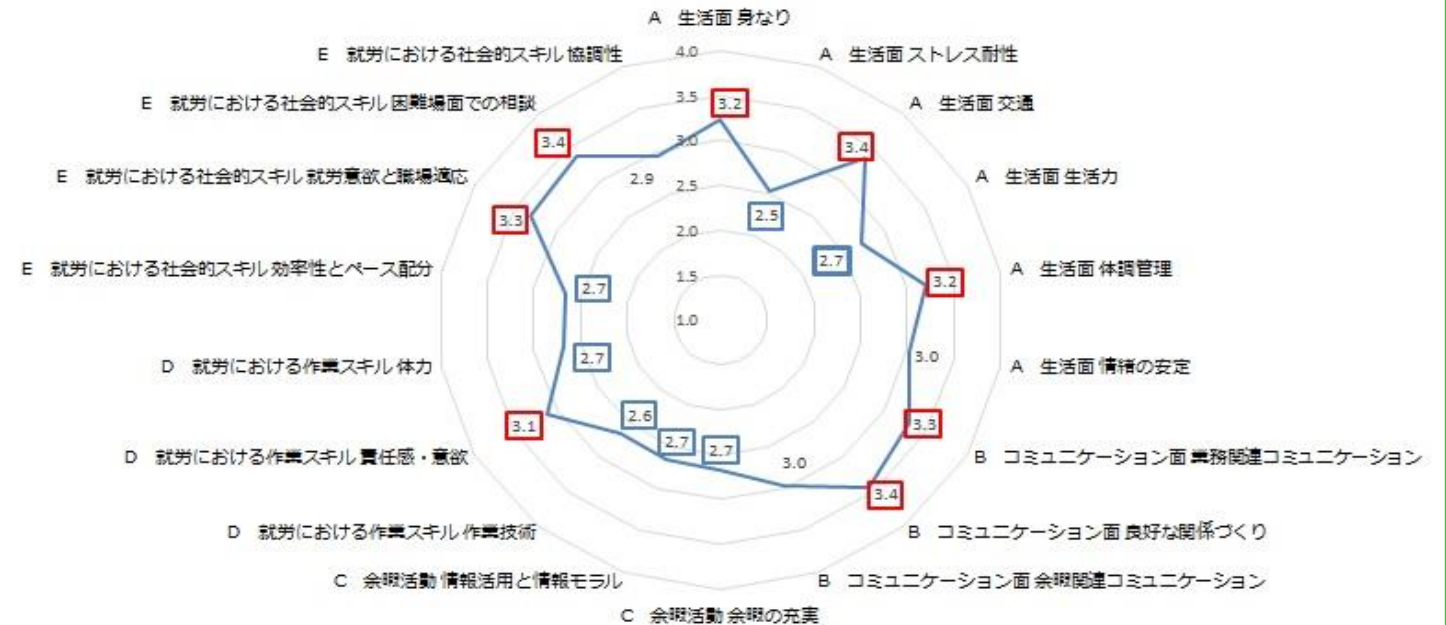
①在学中に身に付けてほしい力

- 感謝の気持ちや素直な心
- 我慢する力
- 体調管理
- 会社と学校の違い
- 仕事に真面目に誠実に取り組む姿勢
- 社会に出て具体的・実践的に役立つ内容

②10年後に必要な力

- コミュニケーションの力
- 情報機器を活用する力（情報処理能力）
- 想像力
- 自立心
- 状況判断能力
- 自己肯定感
- 自己理解
- サービス力（接遇、待遇、マナー）
- キャリアアップを目指す意欲

統計解析に基づき、アンケート項目を大区分に整理



A 生活面【身なり】【交通】【体調管理】
D 就労における作業スキル【責任感・意欲】

B コミュニケーション【業務関連コミュニケーション】【良好な関係づくり】
E 就労における社会スキル【勤労意欲と職場適応】【困難な場面での相談】

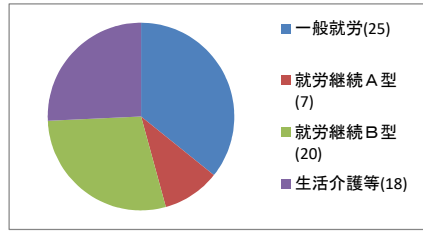


卒業後の職場から在学中に身に付けてほしい
と求められている力

②「フォローアップミーティング」の結果より

対象卒業生

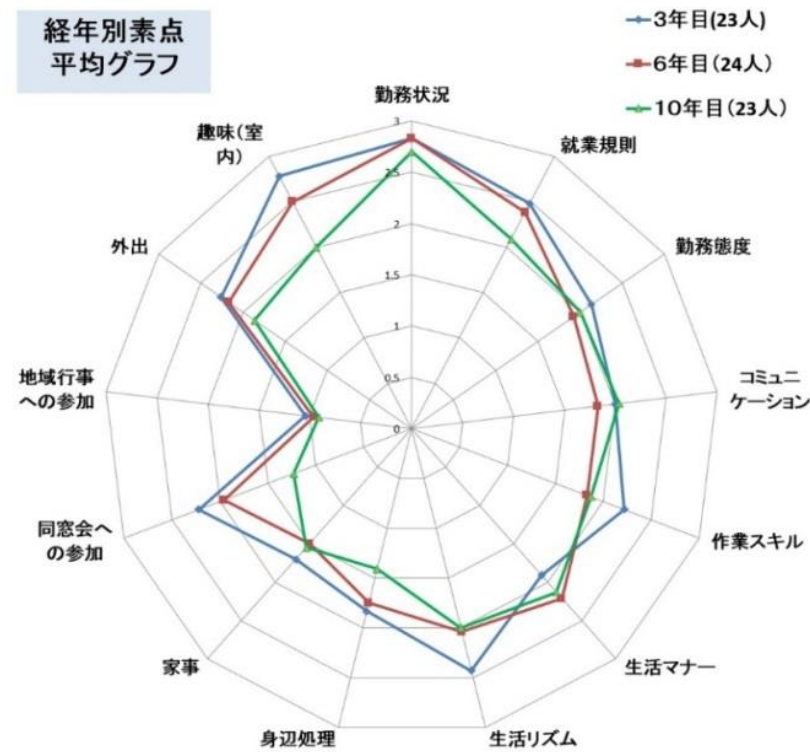
卒業後10年			卒業後6年			卒業後3年			計
h18年	h19年	h20年	h22年	h23年	h24年	h25年	h26年	h27年	
7人	8人	8人	9人	8人	7人	8人	8人	7人	70人
男(13) 女(10)			男(14) 女(10)			男(13) 女(10)			男(40) 女(30)



余暇生活力【趣味・外出・地域行事への参加】
家庭生活力【身辺処理・家事・生活リズム】
キャリアアップの意欲
コミュニケーション力

**卒業後に課題を抱える卒業生が多く
在学中に身に付けておくべき力**

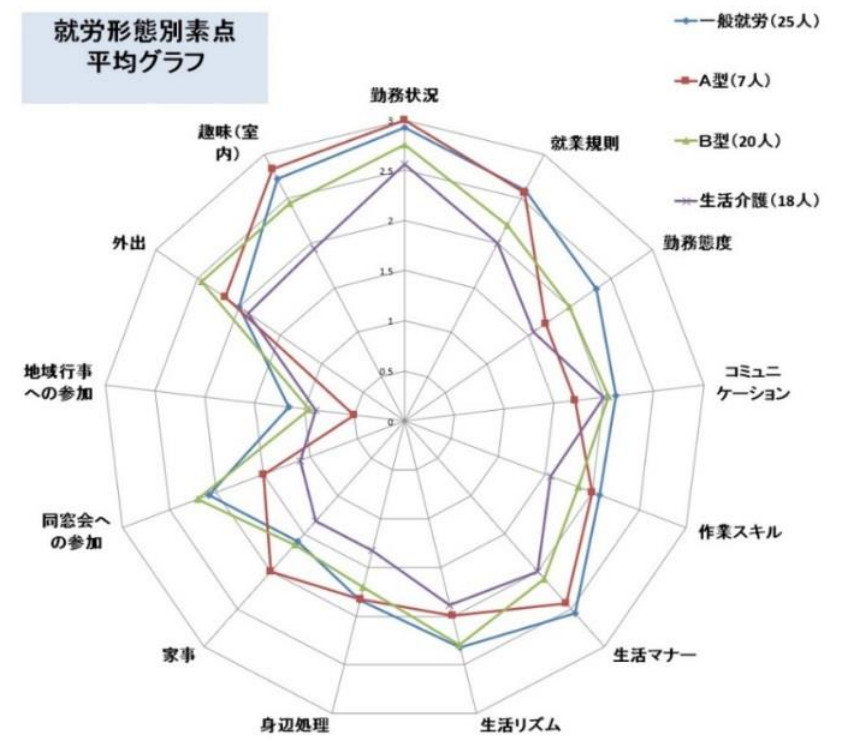
経年別素点
平均グラフ



経年比較より

- 「地域行事への参加」が全体的に低く、「外出」「同窓会への参加」が年々低くなっており、仕事以外の外出の機会が次第に減っている。
- 卒業後、次第に「趣味(室内)」や「家事」「身辺処理」が低くなっている。また、「作業スキル」「生活リズム」も3年目以降低くなっている(生活や仕事のマンネリ化)。
- 「生活マナー」は向上(社会人としての経験の積み重ね)。

就労形態別素点
平均グラフ



就労形態比較より

- 一般就労者は「外出」、A型利用者は「勤務態度」や「コミュニケーション」、B型利用者は「作業スキル」や「生活マナー」、生活介護利用者は「趣味(室内)」が課題。
- 全体をととして「外出」「身辺処理」「家事」「コミュニケーション」「作業スキル(キャリアアップ)」が課題。

(2)教育・労働・福祉の関係機関が連携・協働した取組実施とその成果検証(平成28年度～令和元年度)

授業の開発

高等部「職業科」におけるライフキャリアの授業開発

高等部 職業科「わくわくライフ」

アス・トライ就労移行支援事業所の山田氏と協働し、高等部2年の職業科の授業において「わくわくライフ」というテーマで授業を開発。



高等部 職業科「親子職業セミナー～働くことと『余暇』を考えよう～」

NPO法人KP5000の原田氏にお越しいただき、「働くことと『余暇』について考えよう」というテーマで親子職業セミナーを開催。



高等部「自立活動」における教材等の開発

自己理解のグループにおいて、熊本障害者職業センターにおける職業準備支援の「ナビゲーションブック」を参考に、「自分のことを整理した「私のトリセツ」」を作成・活用。



- 授業における専門的な人材の活用
- 卒業後の生活の視点からの授業開発

研修会等の開催

「卒業後の働く生活を描くセミナー」の開催

障がいのある方の「働く」「暮らす」の支援を行う3つの社会福祉法人と本校が協働し、卒業後の「働く生活」の実際について知っていただき、子どもたちの将来がより具体的にイメージできるようになることを目的として、H29年度よりセミナーを開催。



「すずかけイブニングセミナー」の開催

H28年度より年5回シリーズで「すずかけイブニングセミナー」を開催。主に、附特就職支援ネットワーク会議委員の方々に講師として講話をいただいたり、情報交換を行ったりする形で実施。



- 家庭における保護者の支援力の向上
- 教員のキャリア発達支援のスキル向上

生涯学習の場の検討

学習教室の開催

同窓会活動における「学びの教室」
エクササイズグループにおいては、NPO法人KP5000にコーディネートしていただき、講師の方をお招きしたことで有酸素運動等の本格的なエクササイズ活動を実施。



児童生徒・保護者・教員対象の「アロマハンドマッサージワークショップ」

NPO法人KP5000主催で本校の児童生徒・保護者・教員を対象に「アロマハンドマッサージワークショップ」を開催。



福祉事業所職員等との「ボッチャ体験交流会」

NPO法人KP5000、NPO法人Arts and Sports for Everyoneの方々に御協力いただき、本校の児童生徒と家族及び障がい福祉事業所職員を対象に「ボッチャ体験交流会」を開催。



- 関係機関と連携・協働した地域資源の開発
- 児童生徒の生涯学習の意欲向上

地域支援

地域の高等学校等への就労・生活支援

就労相談窓口「就労サポートすずかけ」を開設し、小中高等学校等への進路・就労支援に関するセンター的機能を発揮。

高等学校等への支援例

- 就労相談や本人のアセスメント
- インターンシップ先の案内やサポート
- 障がい福祉サービスや支援機関の情報提供
- 就労支援に関する研修会の開催

過去4年間の実績

- 本校支援エリアの高等学校生徒8名の就労支援
- 市内ブロック研修や高等学校の校内研修や、企業の障がい者雇用に関する社内研修での講話 等

「教育プラグ」の開発と運用

NPO法人KP5000と協働して、障がいのある児童生徒の進路に関する情報提供を行う「教育プラグ」を開発。



- 高等学校の障がいのある生徒や企業のニーズ把握
- 研究成果の地域への情報発信

【考察】

- 「在学中に身に付けてほしい力」について、卒業後の社会生活から明らかにしていくことで、授業改善を含むカリキュラム・マネジメントにつながる。
- 卒業後の生活を支援している関係機関の視点も含めて授業づくりをすることで、これまでの児童生徒の学びを深め、卒業後の生活につなげることができる。
- 地域の関係機関と連携・協働し、教員・保護者等の支援者向けセミナーを開催したり、生涯学習の場をつくったりすることで、障がいのある児童生徒の育つ地域環境の整備や開発につなげることができる。
- 高等学校や企業等への地域支援をととして、インクルーシブな視点から、小・中・高そして社会生活を見据えた学びの連続性を整理していくことにつながる
- とともに、特別支援教育のノウハウを地域の学校や社会へ発信していくことができる。

【まとめ】

社会や職場から在学中に身に付けてほしいと求められている力や卒業生の様子から在学中に身に付けておくべき力を基に、教育・労働・福祉の関係機関が連携・協働した取組を実施。

障がいのある児童生徒の卒業後の地域社会における自立と社会参加を見据えた卒業後へ学びを繋ぐ授業・カリキュラムの実現と児童生徒が学び・育つ地域づくりへ。